



インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成

中学部 3 年生 授業風景



運動会の思い出 小学部 4 年 1 組

小林 煌河

2 年ぶりに日本語学校で運動会が開催されました。ぼくはこの日を楽しみにしていました。運動会ではリレーの選手に選ばれていました。4 年生の女子から男子、そして 5 年生、6 年生へとバトンをつないでいきます。4 年生女子からスタートして一位でバトンがぼくにまわってきました。思いっきり走りそのまま 1 位で次の 5 年生へバトンをわたしました。チームは 3 位でしたがとても楽しかったです。また来年リレーに参加したいです。

石川 蒼依

久しぶりの運動会は秋晴れでした。運動会の競技のなかで私が一番楽しかったのは、アンカーという大切な役割を果たしたバランス名人です。棒の両はしにおもりをつけて運ぶのですが、バランスが上手にとれなくてたおれそうになりました。応援するときもハラハラしてすごく盛り上がりました。クラス全員で協力することが重要でしたので、みんなでがんばって勝つことができてよかったです。



永野 愛佳



私が参加した競技のひとつはバランス名人です。ぼうの両はしに重い土ぶくろがついていて、それをもって走って相手にわたし速さを競います。土ぶくろがとても重くバランスがとりくにいいこともあってとても走りにくかったです。しかしみんなのチームワークで勝つことができました。いつもはあまり話したことがなかったクラスメイトとも運動会での競技や応援のときにたくさん話すことができてうれしかったです。

折原由奈

午前中の幼稚部の「げんきにバルーン」では「つばめ」の曲でこどもたちがバルーンをつかって踊りました。私のクラスメイトは、大好きな曲「つばめ」が流れていたこともあって、幼稚部の子供たちが踊っているのを見て、かわいいとはしゃいでいました。踊っているこどもたちの様子がかわいらしかったので、見のがしてはいけないと写真や動画を撮る人の数も次第に増えていきました。来年もこんな楽しい運動会ができればいいと思いました。

町田 柚輝

運動会ではバランス名人をしました。棒の先に二つついたふくろの中に砂が入っています。とても重かったです。この棒をバトンのように次の選手につなぐリレーのような競技です。途中の U ターンするところでは、うまくバランスがとれず難しかったです。走り終えることができ次のクラスメイトに、この棒をつなぐことができました。インディアナ日本語学校にきて初めて経験する運動会でしたがとても楽しかったです。

「きいて、きいて、きいてみよう」 小学部 5 年 1 組

「ワンワールド」でインタビュー 安藤 歌耶

私は、いつもお母さんと買い物へ行っている日本食スーパーの「ワンワールド」で聞いてみたかったことを2つインタビューしました。

一つ目の質問は、どんな国の人がワンワールドに買い物に来るかということです。答えは、日本のお客様が全体の二十五パーセントで、他のアジアのお客様が三十五パーセント、それ以外の国のお客様が四十パーセントだそうです。

二つ目の質問は、ワンワールドで働いているアメリカ人の方は、日本が好きだから働いているのかということです。日本人以外の働いている人は、日本の食べ物や文化、また、日本人が好きだったり、日本に感心があったりする人だそうです。日本語を学ぶために働く人もいるということでした。

インタビューをして私が分かったことは、日本人だけでなく、色々な国の人がたくさんお店に買い物に来たり、お店で働いたりしているということです。私にとってワンワールドは生活に欠かせないお店ですが、外国人にとっても必要なお店なんだと思いました。たくさんの外国人が日本や日本食が好きでうれしいです。

「お父さんの仕事」 飯田 怜

ぼくはお父さんの仕事についてインタビューをしました。おとうさんは車をつくる工場の運営をする仕事をしているそうです。お父さんが車に関係した仕事をしていることは知っていたけれど、具体的にどのようなことをしているのか分からなかったの、それをインタビューしたいと思いました。

最初に、日本にも車をつくる会社はたくさんあるのに、どうしてその会社の中でもホンダで働きたかったのかと質問をしました。理由は、「ホンダは車をつくること以外にも色々やっているの、車が売れなくても大丈夫。」と思ったからだそうです。もう一つ、どうして色々な仕事がある中で今の仕事を選んだのかと質問しました。そうしたら、「車は複ざつだから、ずっと進化しつづけると思った。」のと、「新しいことをずっとやっていたいと思ったから。」という理由がかえってきました。

ぼくは、お父さんにインタビューをする前は、車の会社に入ったのは、ただ車が好きだから、という理由だけなのかと思っていましたが、インタビューをして、たくさんの理由があったことが分かりました。

「お母さんのこんだて」 熊谷 咲那

毎日かかさず、料理を作ってくれるお母さんは、どのようにこんだてを決めているのか知りたかったので、インタビューをしました。

お母さんは、こんだてを決めるのに大変なことがあるそうです。それは、子どもの好ききらいです。好ききらいで、使う食材や味つけ、ちょう理方法を選ばなければいけないので、家族みんなが食べられるようにこんだてを決めるのが大変だそうです。そのため、こんだてを考えるのに時間がかかると言っていました。

インタビュー中のお母さんは真けんな表情で、こまっているように見えたので、少しでもお母さんが楽になれるように、好ききらいをなくし、料理をつくるのを手伝ったりすることが毎日の習かんになるようにがんばりたいです。

「わたしのおば S さんへのインタビュー」 熊澤 佐保

今回わたしは、おばの S さんにインタビューしました。S さんは高校の先生をしています。そして、わたしがなぜ S さんにインタビューをしたか、そしてどんなことをお聞きしたか、そのときのわたしの感想をしょうかいいたいと思います。

わたしには、「和カフェ」をつくって働くというゆめがありますが、どうすればいいのかわかりませんでした。そこで、どうやってその仕事についたかを聞こうと思いました。それにうまく答えてくれるのは何といっても先生である S さんだと思ったので、S さんにインタビューをしました。

S さんは学級委員のようにみんなにアドバイスするのが好きだったのと、歴史の授業をするのが好きだったそうです。その 2 つの好きなことを組み合わせると社会科の先生だったので、教師になることにしたそうです。

ハロウィーン 10 月 31 日 なぜ「ハロウィーン」とよばれるの?



その昔、ヨーロッパでケルト民族が死者のお祭りとして行っていたものが始まりで、二千年以上もの歴史があるお祭りです。古代ケルトでは 11 月 1 日が新年で、前夜の 10 月 31 日から、秋の収穫物を集めた盛大なお祭りが開かれました。またこの日には、死後の世界との扉が開き、先祖の霊がもどってくるとも信じられていました。日本でいえば「大みそか」「秋祭り」「お盆」が一度に来るようなものだったのです。

その後ケルト民族はキリスト教になっていきますが、祭の習慣は残り、キリスト教会が 11 月 1 日を「諸聖人の日 All Hallo」と定めたことから、

その前夜 = 「All Hallo Eve」 → 「ハロウィーン」と呼ばれるようになったと考えられています。長い年月を経て、ヨーロッパ各地、そしてアメリカへと伝わりました。

アメリカ人の子どもたちが大好きなハロウィーンの行事の一つは、「トリック・オア・トリート」です。子どもたちはそれぞれ仮装をしてまわりの家を訪ねては、「トリック・オア・トリート! (おかしをくれないといたずらをしちゃうぞ!)」とさけぶのです。すると、家の人はたいていお菓子をくれるというわけです。



なぜ仮装するの?

伝統的に魔女やお化け、吸血鬼やガイコツなどが多いです。これは、同じかっこうの衣装を着ていれば、ハロウィーンの夜に悪さをしようとしてくる悪霊たちに仲間と思わせて、だまして自分の身を守るという理由です。アメリカでホラー映画が流行ると、ドラキュラやフランケンシュタインといったモンスターたちも仮装に加わりました。

同様に、お化けのかっこうをした訪問者におくり物をする習慣にも、自分たちの身を守るという意味がありました。今日では、子どもたちは映画やテレビ番組のキャラクターをモデルにコスチュームを着ることが多く、大人たちの間でも仮装パーティーが一般的になりました。



庭の飾り付け

名物カボチャのランタン 「ジャック・オー・ランタン」と呼ばれるカボチャちょうちんは、最も特徴的なハロウィーンのシンボルであり、慣習のひとつでもあります。人々は大きなオレンジ色のカボチャをくりぬいてこわい顔やおもしろい顔を作り、その中にロウソクなどで明かりをともしてちょうちんにするのです。「ジャック・オー・ランタン」の風習はアメリカでつくられたもので、昔はカブで作っていました！



「ジャック・オー・ランタン」7000 個 ↑

『意地悪なジャックは、悪魔をだまして生き長らえたため、寿命が終わった後も、天国へも地獄へも行けなくなり、カブで作ったランタンを持って永遠にさまよい続けている。』このアイルランドの古い民話を元にした「ジャック・オー・ランタン」は、アメリカでカブからカボチャへと姿を変えます。当時のアメリカではカボチャのほうが手に入りやすかったからです。

日本でも「仮装パレード」は全国各地で開催され、小学校の英語で、アメリカの文化理解として、学校で仮装をしたりします。日本のお店で売っているコスプレも、今では本場アメリカと同じくらいの充実ぶりです。日本もハロウィーンにちなんだ期間限定のお菓子が、コンビニやスーパーのお菓子棚に並びます。食べる前から楽しみです。大人も子どももいっしょになって、ハロウィーンを楽しみます。

ランタン自由の女神



オーチャードスクールの校庭



配るお菓子



子どもが集めてくるお菓子



まちの雰囲気を感じ取ろう!!!!

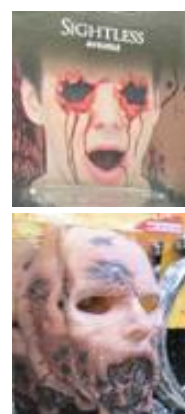
2022 年のインディアナのスーパーマーケットで売られているハロウィーンコーナー [男の子用 女の子用]



ちょっとこわいコスチュームや飾り



マスク



【お知らせ】

11月 5日 避難訓練
11月 19日 中学部期末テスト 高等部弁論大会
11月 26日 学校 休み サンクスギビング

本日の配布物 なし



借用校 私立オーチャードスクール
は、昔からの名門校です。今年 100 周年を迎えました。